

災害からの復興・復災について

チーム 学習指導案チーム

北村應実（大分雄城台高校）／河野紫音（大分西高校）

Steam教育

学習指導案チーム

災害からの復興
復災について



メンバー紹介

北村應実（大分雄城台）
・放送部（番組制作）
・判田中出身
・災害が多くなってきた今、自分もなにか貢献したいと思ったから。

河野紫音（大分西）
・災害がこの先絶対起こると言われていて不安が大きいため、書道部に入っています！
・城東中出身



メンバー紹介

林咲由希（大分西）
・災害が起きると毎回不安になるから。
・今は進路に向けて頑張っています
・湯布院中出身



復災学習



復災学習

防災を中心に学習する防災学習に対して、復興を中心に学習すること

設定理由

- 地震が来たときに何をしたらいいかわからず、やだから。
- 「防災」や「復興」などは別に、災害が起きてからの私たちにできることが明確でなかったから。
- 災害時についての知識をこれからの社会を担っていく私たちの世代にわかりやすく伝えていきたいと思ったから。

ありたい姿

被災後に率先して動くことができる人材（高校生）を育成し、復興をスムーズに進めること

現状

- 能登半島地震
- 東日本大震災
- 熊本地震

直近の災害において震災後の復興・復旧が進んでいる地域もあれば、遅れているところもある。遅れているところとして、**人手不足・機材不足**が挙げられる。

現状

過去の教訓から私たちは、様々な学習をしているが、防災学習の先についての学んだり、知る機会が少ない。

災害が起こる前・起こった時のこと
防災学習 + 災害以降の学び？

防災学習を通じて、災害から命を守ることを学ぶと同時に、その先にある、災害以降の学びが必要はないかと考えました。

地震3カ月のボランティア活動人数

地域	活動人数
熊本地震	40
能登半島地震	983
東日本大震災	1373
熊本地震	70
復興期	2505
復興期	80
復興期	2263
その他	40
その他	3598

100%のボランティアで活動した人数



現状とありたい姿のギャップ

【現状】
・想定を超える災害の発生
・復興のスピードに差がある
・防災意識>復興意識

【ありたい姿】
・復興までの見通しが立っている
・防災+復興教育
→復興がスムーズに


小中高で、防災に対する訓練（避難訓練）は行ってきたが、復興に対して、考える時間や機会が少ない

災害の流れ

防災
災害発生！
初動期
応急期 発生から一週間程度の期間
復旧期 一週間後から約一ヶ月
復興期 一ヶ月以降

調査方法

- インターネット
- 文献調査
- 現地の人に聞き取り
- 高校生を対象としたアンケート



調査方法

③現地の人に聞き取り
石川県 穴水町役場
Q.仮設住宅設置位置について
Q.仮設住宅での暮らしでの困り事や満足したこと
Q.復興の状況
Q.復興について



現地の人への聞き取りの様子

- 設置位置の場所どりの難しさ
- 生活していくにつれてニーズに合わせての不満・意見が出てくる
- 完成を10としたら3割程度
- 「セーフティネット」という独自の自治会で進められている

アンケート

【目的】
大分の高校生がどれくらい、防災・復興に意識を向けているかを知るため。

【質問項目】
①住んでいる場所
②自分で体感する地震の体験の有無（直近1年以内）
③今、地震が起きた時に、自分・家族の備え等は十分できていますか？
④避難場所や避難経路などはわかっていますか？
⑤避難所での生活です。お風呂に入ることができません。あなたはどうしますか？
⑥避難所での生活です。被災して食べ物が手元がありません。あなたはどうしますか？
⑦1人である時に被災しました。あなたはどうしますか？

気になった回答

お風呂に入れないとき
・（汗拭きシート、濡らしたタオル、除菌シートなどで）拭く・・・24人
・耐える・・・6人
・（水道水などで）洗う・・・3人
・ドライシャンプー・・・1人
・温泉・・・1人

食糧がない時
・耐える・・・10人
・周りにもらう・・・7人
・周りを探す・・・7人
・水だけは飲む・・・3人
・非常食・・・2人
・狩りをする・・・1人
・親戚の家に行く・・・1人
・周りの植物を食べる・・・1人
・コンビニ強盗・・・1人

アンケート総括

アンケートの回答の目立った回答は、危機感を持った考えをできていない回答が多かった
本来妊婦やお年寄りを手助けすべき立場の高校生が動けないような答えばかり

衣食住

今
・季節に合った服
・温かいご飯
・飲み物も十分にある
・家がある

被災後
・季節に合った服・衣服も少ないかもしれない
・道路が壊れてトラックが通れないかもしれない
・住む家が崩れている



復災学習-応急期の学び

・災害ダイヤル 171
・温かいご飯の確保
・飲み物の確保
・安全に寝るところ



復災学習-復旧期の学び

・災害時、自分で洗える洗濯の方法を知っておく
・新聞紙スリッパ

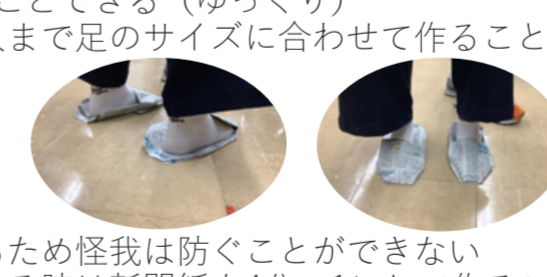
【問題点】
ペーパーと間に部屋で掃除できない
他の避難者のいびきや音響が気になる
小さい子供の泣き声や泣き音が気になる



新聞紙スリッパ

メリット
約3分で作ることできる（ゆっくり）
子供から大人まで足のサイズに合わせて作ることができる
あったかい

デメリット
滑りやすい
簡易的であるため怪我は防げることができない
※子供用を作る時は新聞紙を4分の1にして作ることができる



復災学習-復興期の学び

- ストレッチ
- ハザードマップ
- ボランティアの注意



総括

高校生の防災と復興に対する具体的な行動を考え、示すことができた

仮設住宅や、大規模な復興については、スケールが大きくなるため、自分たちでできる実践的なことや心理的な身近なことについての復興を考えることができた

これから実際に、学校で初動期から復旧期までの項目をグループ分けして、ディスカッションしてみる

参考文献

- 【高校生防災特集】
<https://teambuddy.jp/kiji/feature/kiji32.html>
- 【災害用伝言筒】
<https://www.ntt-west.co.jp/dengon/>
- 【復興の教科書】
<https://oss.sus.u-toyama.ac.jp/tukko/about/>
- 【避難所運営ガイドライン】
https://www.bousai.go.jp/kaijirep/kentokai/hinanzokakuho/wg_situ/pdf/dai6kai/shiyo1-3.pdf
- 【TBS NEWS DIG】
<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/1066805?page=3>
- 【中日新聞】
<https://www.chunichi.co.jp/article/878404>

